

# 子供の貧困対策について

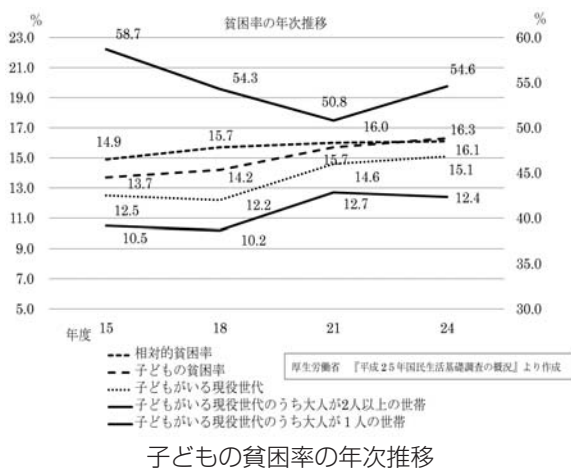
質問

市長は同僚議員の質問に対して、奥州市の子供の貧困率については、実態調査が行われていないこと、岩手の子供貧困計画が示され、個々の支援事業の取りまとめを行っており、個々の事業について検証していきたいとしており、これからの検討にかかっていることを明らかにしている。そのうえで、子どもの貧困の実態調査について、実態調査そのものができるかどうかともわからないとして、調査そのものの可否について検討することを表明した。

イギリスの、「子どもの貧困根絶法（2010年）」では、相対的低所得（等価純世帯所得が中央値の60%未満）のもとで暮らす子どもを10%未満にしていこうという数値目標を設定し、具体的に取り組んでいる。

どれくらいの子供が貧困なのか、実態を調査する。そして、どのような対策をいつまでにとるのか、目標を決めて取り組む。思い切った予算をつける、2年に1回は調査をし、対策の見直しもしていくことが重要だと考える。沖縄県では、県独自でこどもの調査をし、予算をつけ、対策を検討していると聞く。

改めて、市として子どもの貧困率にかかわり実態調査をすべきと考えるが



どうか。



こんの ひろふみ 議員(日本共産党)

市長 厚労省の実施している貧困率の調査は向かないと思うし、もう少し実態に即した調査は大切だと考える。今奥州市における子どもたちの実態がどうであるか、市としてできる方法がどこにあるのかを考え、できることを実施してまいりたい。

## 産業及び経済振興対策をより強力に

質問

今日の本市の経済実態は極めて憂慮すべき状況にあり、行政としての政策充実が求められている。多くの政策課題はあるが、産業経済対策は最も重要な喫緊の課題である。農工商に於ける経済の実態をどう捕えているのか、又、これらの振興対策の基本的、考え方は。

市長

個人消費は減退し、地域経済は悪化の方向にあると思われる。具体策として、まち、ひと、しごと創生総合戦略を中心に取り組みを強化していく。経済振興対策は喫緊の課題と認識している。各種事業を転開し、仕事人が人を呼び込む好環境を確立し安心して生活できる社会を作り地域経済の発展に継ぎたい。又、今年度に策定する次期総合計画に反映させる。

駐車場、多目的広場のあり方は

質問

前沢区内のいきいきスポーツランド隣接地の駐車場および多目的広場の活用状況は日頃利用されていない。特定の区の施設ではなく全市的に活用されるべきであるが今後の活用策は。

市長

27年度に於いて整備したものであるが、前沢牛まつり、夏まつり、マラソン、消

防訓練等で活用をする。尚、今後の利用方法については多くの市民が利用されるよう検討する。

創設用地の活用方策は

質問

創設換地用地3ha余りの活用を早急に進めるべきである。行財政改革の視点からも市有資産の効果的活用を図るべきであるが、その考えは。

市長

厳しい財政状況ではあるが、民間活力も考慮しつつ、市民の利益になるよう総合的に、施策の具体化を進める。



かとう 加藤 議員(新世会)



奥州市経済を支える江刺中核工業団地